

からこんにちは！

小学校

祝 卒業

〔卒業式式辞 一部抜粋〕

6年生となった皆さんは、一貫校となった西ノ島小中学校の中においても、西ノ島小学校の最高学年として西小の看板を背負って頑張りました。コロナ禍の中、全徳岐陸上大会や江府町との交流が中止、修学旅行は行き先を変えて行いました。何もかもが今まで通りにいかない中でも皆さんは、自分達だけでなく相手のこと、全校のことを考えて自分達がすべきこと工夫して行っていました。「卒業プロジェクト」では、全校に楽しい時間をたくさん用意してくれました。節分の豆まき、全校レク、各学級との交流、清掃活動など6年生全員で協力して成功させました。お世話になった西小のために頑張る皆さんの想いは、下学年にしっかりと伝わっていました。それは5年生を中心とした「6年生を送る会」の成功に現れていました。本当に下級生に愛され信頼されている6年生に成長したんだと私は嬉しく思いました。

さて、卒業生の皆さんに、中学校へ進学するにあたって心にとめてほしいことを二つお話します。

一つは、「様々な行事を通して皆さんの心は鍛えられ高くなった」ということです。コロナ禍の折でしたが、皆さんはたくさん行事を通して成長しました。校内陸上記録会や島前陸上では、パワーアップタイムなど普段から鍛えられている心と体を使い、好成績を取めました。小中合同の運動会や音楽会、学習発表会では、自分たちの力を精いっぱい出すだけでなく、下学年のことまで心を配り、会自体を成功に導きました。

私が最も心に残っている行事は、島前バスケット大会です。皆さんは、全チーム優勝という高い目標を掲げました。女子1チーム・混成1チーム・男子は2チームも出場した上で高い目標です。チーム分けも全員が力を発揮できるように配慮して分けました。途中でけんかもしながらでしたが、どのチームも優勝できるように一生懸命練習しました。大会当日、女子、混成、男子Aの3チームが全勝優勝で迎えた、最後の男子Bチームの試合。いつももなら入っている自分たちのシュートは入らないのに、相手のシュートは入る。点差が離れていく苦しい展開。選手は、疲れが出てくる後半でも、足を使って前からボールを奪いに行く。その姿を他の3チームもみんなが自分のこととして心から応援しました。結果、追いつくことはできず悔しい思いをしましたが、西小みんなで高い目標を持ち、西小みんなで悔しい思いをしたことがとてもよかったです。高い目標を持ち、広い心でみんな協力し励ましあうことで、皆さんの心が高く広く成長できたと思います。

二つ目は、「先生方に皆さんの心は鍛えられ深く強くなった」ということです。特に担任の先生方は、皆さんのために、熱い指導をしてくれました。皆さんには「自分の考え・想いを言葉にして相手に伝えること」、「友達に自分から話しかけること」、「苦手なことから逃げずに努力すること」などに課題がありました。深く考えることなく自分の考えを持たずに、友達と話してくれるまで黙っていたら、楽かもしれない。自分の心の弱さに負けて、やる気をなくしふてくされたり、苦しいことから逃げたりすれば、嫌なこと苦しいことをしなくてすむので、楽かもしれません。でもそれはダメなのです。将来、皆さんが困るのです。だから、担任の先生方は、妥協することなく深く

考えることを求め、辛いことにも立ち向かえるよう根気強く指導をしました。その結果、皆さんは鍛えられ、課題を克服し、大きく成長しました。深く考えることもでき、強い心で困難に立ち向かうことができるようになったのです。

以上「様々な行事を通して心が高く広く成長できたこと」、「先生方に鍛えられて心が深く強くなったこと」の二つをお話しました。しかし、この二つはまだ十分ではなく、中学校でも一貫して鍛えていかなければいけないことも心にとめておいてください。

最後に、卒業と共に別の学校へ進学する人もいますが、皆さん全員の中学校への旅立ちを心より祝福し、この卒業式の退場の歌「空より高く」から次の言葉を贈ります。西小全員から皆さんに贈るエールだと思ってください。

君の心よ 高くなれ 空より高く 高くなれ
君の心よ 深くなれ 海より深く 深くなれ
君の心よ 広くなれ 空より広く 広くなれ
君の心よ 強くなれ 海より強く 強くなれ

以上、式辞と致します。



▲ 卒業式の様子



▲ 卒業生集合写真

6年間を振り返って

6年生は書写の時間に、6年間を漢字で表しました。それぞれ思いは違いますが、6年間で培った経験をこれからの中学校生活に生かしてほしいと思います。

- 浅岡 志美 「辛笑」
- 池田 楓 「学努」
- 大野 朔矢 「叱考策悟」
- 栗木 瞳弥 「粘心」
- 小松 由奈 「勉努」
- 関谷 怜 「準備」
- 富谷 太智 「友笑」
- 中澤 一希 「優」
- 柳樂 陸斗 「機創」
- 丸井 悠翔 「七転八起」
- 向原 颯太 「進化」
- 山崎 暖 「暖星」
- 吉谷 広成 「自学」
- ラッセル シドニー 「優笑」
- 古田 煌大 「夢卵」



西ノ島小中学校

中学校

祝 卒業

卒業式辞 一部抜粋
13名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

皆さんと過ごした2年間、様々な場面で見える皆さんの姿に、大きな成長と頼もしさを感じました。

部活動で声を出し、一生懸命ボールを追いかける姿、小中合同運動会を成功させようと下級生に声をかける姿や見事に踊りきったソーラン節、ふるさと西ノ島の心をしっかりと地域の方に伝えた演劇、授業を受ける時の真剣なまなざし。そんな皆さん一人ひとりの輝きと、協力し合う温かな雰囲気は、西ノ島小中学校の看板を背負っているという自覚にあふれていました。

それができたのも、あいさつや掃除、授業や部活動、生徒会活動など、ひとつひとつのことを素直に取り組み、毎日の積み重ねがあったからだと思います。

皆さんの小中学生としての生活を振り返ると、「変化」の大きい9年間だったと思います。平成25年、浦郷にあった西ノ島小学校に入学し、4年生の夏にはこの小中併設の新校舎に引っ越し、平成31年4月に西ノ島中学校に入学、そして今年度4月から小中一貫教育を本格的にスタートした西ノ島小中学校の最上級生となりました。中学校の3学年だけでなく、小中合わせて9学年を引張るリーダーとしての生活は、今まで誰も経験したことがない大きな「変化」だったと思います。その「変化」の中で、皆さんは考え、時に悩み、力を合わせながらよりよい学校を作ろうとしてきました。自分たちの置かれた環境の中で皆さんは成長し、皆さん

自身が変わっていききました。

これから皆さんが進む道は、今まで以上に大きな変化があります。環境も変わる、友達も変わる、世の中の流れや仕組みも変わっていきます。その変化は自分にとつて都合のよいことばかりではありません。そんな変化に出会ったとき、下を向いていても、あの頃はよかったですと過去を振り返っても、前に進む力は得られません。今までのように、変化を前向きにとらえ自分がどう考えどう行動するかを大切にしていってください。

そのために、皆さんにはこれからもぜひ「学び続ける」人であってほしいと思います。

学び続けるとは、学校も勉強もそうですが、自分の足下から遠くまで広い世の中のことを知ろうとすること。物事を詳しく見つけ追求すること。知らないことや新しいことに興味を持ち挑戦すること。汗を流し体を動かすこと。音楽や美術などの文化や芸術に触れること。様々な人と関わり、ものの考え方を広げること。そして、人を思いやり、自分の力を誰かのために使うことなど、自分の周りの世界に対して頭と心と体を精一杯働かせ、関わりを持つことです。これが「学び続ける」ことだと思っています。

どんな変化が訪れようと、自分を前へ進めるのは「学び続ける」自分なのです。

皆さんどうか、西ノ島小中学校の卒業生であること、ふるさとが西ノ島であることを誇りに思い、新しい世界へ堂々と歩み出していきってください。今日巣立ちゆく皆さんを、私たちはずっと応援していきます。

最後になりましたが、本日ご臨席の皆様、13名の卒業生に對しまして、今後も温かく見守り、ご指導いただきますようお願い申し上げますととも

に、卒業生の今後の成長とますますのご活躍をお祈りし、はなむけの言葉とします。

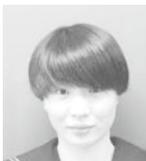
西ノ島中学校 卒業生



富村 心裕



田中 嶺桜



清水 麗



小前 亮太



伊藤 遥斗



西脇 愛翔



玉川 貴一



田口 美緒



堺 翔



小川 凪斗



武藤 菜那



藤井 琴花



▲ 卒業生集合写真



▲ 卒業証書授与式



眞野 健悟